

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【文部科学省】

施策番号	24135	施策名		最先端研究開発戦略的強化費補助金			
新規/継続	継続	領域	基礎研究	国際的位置付け	世界最先端	AP施策	
競争的資金		e-Rad		社会還元			
施策の目的及び概要	<p>グリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションを中心に、基礎研究から出口を見据えた研究開発を行う最先端の研究設備の整備・運用に必要な支援を行い、「頭脳循環」の実現による研究開発力の強化を図る。(最先端研究基盤事業)</p> <p>また、最先端研究開発支援プログラム全般及び当該中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開する活動に対して助成を行う。(最先端研究開発支援プログラム公開活動)</p>						
達成目標及び達成期限	<p>平成24年度までに以下を実現し、「頭脳循環」の実現による研究開発力の強化を図ることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際水準の研究拠点の整備を加速させ、国際的な研究拠点の構築 ・国内外の若手研究者を惹きつけ、切磋琢磨する研究環境の構築 <p>また、最先端研究開発支援プログラムの公開活動を通じて、研究情報の発信や知識の交換を図るとともに、次代の科学技術を担う人材の裾野の拡大と国民の科学技術に関する知識や能力の向上に貢献することを目標とする。</p>						
研究開発目標及び達成期限	<p><採択された課題に関する例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代パルス最強磁場発生装置の整備では、平成23年度までに1000テスラを発生可能なパルス強磁場発生システムを導入する。 ・生命動態システム科学研究の推進では、平成24年度までに、細胞内分子の計測データと計算を連携させた高精度計算シミュレーション技術の高度化を図る。 ・KEKB加速器の高度化では、平成24年度までに現在の加速器の3～4倍のルミノシティ(衝突頻度)を達成する。 						
23年度の研究開発目標	<p>本施策により、平成23年度は、頭脳循環の実現による研究開発力の強化を図るために必要な設備の設計・開発・整備等を行うとともに、最先端研究開発支援プログラムの公開活動については、主に研究者を対象とした国際的なシンポジウム及び主に一般国民を対象としたシンポジウムの開催を支援する。</p>						
施策の重要性	<p>最先端研究施設・設備や支援体制等の環境整備により国内外から優秀な研究者を惹きつけて国際頭脳循環の核となる研究拠点を形成することは、我が国の研究開発・人材育成における国際競争力を強化する上で重要な施策である。</p> <p>また、最先端研究開発支援プログラムの公開活動は、研究情報の発信や知識の交換を図るとともに、次代の科学技術を担う人材の裾野の拡大と国民の科学技術に関する知識や能力の向上に重要な施策である。</p>						
実施体制	<p>総合科学技術会議の方針(最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針)に基づき、最先端研究基盤事業については、文部科学省において、研究者からの意見募集や日本学術会議との意見交換、有識者を含めたヒアリング等を実施し、これらの結果等を踏まえ、事業計画案を作成し、内閣府科学技術政策担当政務三役及び総合科学技術会議有識者議員からなる会合(以下「調整会合」という。)の了承を得た上で決定。</p> <p>最先端研究開発支援プログラム公開活動については、調整会合において、最先端研究開発支援プログラム全体及び中心研究者・研究課題の内容を広く公開する活動について提案を募り、対象となる活動及び助成額の決定案を作成し、総合科学技術会議が最終決定。</p>						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
40,000				18,000			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)							

H23概算要求額の内訳	最先端研究基盤事業:17,800 最先端研究開発支援プログラム公開活動:200 —		
期間	H22～—	資金投入規模(億円)	—
これまでの成果(継続のみ)	最先端研究基盤事業については、現在、補助対象機関において、最先端の研究成果を創出するための設備の整備等を行っているところ。 最先端研究開発支援プログラムの公開活動については、補助対象機関において、今後平成22年3月末までに順次シンポジウムが行われる見込み。		
社会情勢・技術の変化(継続のみ)	<p>グローバル化が進展し、国際的な頭脳獲得競争の激化による人材の流動性が高まる中、我が国の科学技術水準の向上を図るためには、我が国の研究者が海外で研鑽を積み、帰国後さらに活躍できる機会を充実するとともに、海外の優秀な研究者が我が国で活躍できる国際的な「頭脳循環」を実現することが重要になっている。</p> <p>「最先端研究基盤事業」は、国際的な頭脳循環の実現に向け、国内外の若手研究者を惹きつける研究基盤の整備を強化・加速するため、研究ポテンシャルの高い研究拠点において、最先端の研究成果の創出が期待できる設備を整備し、我が国の研究開発力の強化を図ることを目的とし、総合科学技術会議の方針に基づき平成22年度より開始。</p> <p>最先端研究開発支援プログラムの公開活動は、30の研究課題について、研究情報の発信や国内外の研究者と知識の交換を研究開発に活用することによって研究開発の実効性や効率性の向上が期待されること、また、研究者と国民との対話を通じた国民のニーズの共有化を図るとともに、次代の科学技術を担う人材の裾野の拡大と国民の科学技術に関する知識や能力の向上に貢献する双方向コミュニケーションの取り組みが重要であることから、プログラムの加速・強化の一環として平成22年度より開始。</p>		
昨年度優先度判定(継続のみ)	—	優先度判定時の指摘への対応(継続のみ)	平成22年度予算編成過程(平成21年末)において本補助金を創設することとなったため、総合科学技術会議における優先度判定の対象となっていない。
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)	<p>平成22年度より、最先端研究開発支援プログラムの対象となる30課題の中心研究者・研究課題の研究開発を一層加速・強化するために、国際シンポジウム等最先端研究開発支援プログラム全般及び当該中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開する活動に対して助成を行っている。</p> <p>なお、「最先端研究開発支援プログラムにおける『国民との科学・技術対話』の推進について」を平成22年6月19日に科学技術政策担当政務三役及び総合科学技術会議有識者議員が決定し、本事業による公開活動(一般シンポジウム)も科学・技術対話に位置づけている。</p>		